



(本社)

株式会社エヌティーシー

大阪府貝塚市二色北町

匠がつなげる「おもてなしの心」

～お客様が必要とされる

技術と品質を提供する～



製造グループ
ゼネラルラインリーダー
中井哲男さん



(当社製
ろう付けハニカムパネル施工例)

◇御社の歴史を教えてください。

当社は、大正七年に大阪アルミニウム製作所として創業しましたので、変遷はありますが、一〇一年の歴史があります。平成十四年に現在の「株式会社エヌティーシー」として事業を展開し、今では鉄道、自動車、航空機、船舶など各種分野におけるアルミ加工製品の製造・アルミハニカムパネルの製造等で、日本軽金属グループの一翼を担っています。

◇「ものづくり」へのこだわりは？

日本軽金属グループ会社として、アルミニウムに関する技術にこだわっており、ろう付け加工や接合加工、切削加工などの技術を有しています。しかし、大事なことは、技術の進化と時代の変化に対応し、お客様がどのような技術・製品を欲しておられるかを見極め、お客様の気持ちやニーズに寄り添った「技術提案」を行っていくことだと考えています。当社では、それを「おもてなし」という言葉で表しています。技術へのこだわりを、お客様最優先に考え、お客様の要望にそのまま応えるだけでなく、常にプラスアルファ

◇従業員の人材育成は？

を提案していくことを大切に、お客様本位の考えが「おもてなし」です。これが、目に見えない「信頼」につながっていくとおもいます。

当社で行っている仕事は、基本的にルーティン化出来ない、日々が異なるものが多数です。そのため、基本的にはOJT教育です。社員のやりたいことや理想のヒヤリングと、スキルや技術レベルを把握し、個人の年間目標と組織の目標を共有していきます。また、小集団活動やNPS活動などの手法を用いて課題解決のためのアクションも行っていきます。品質、安全、生産性などが一定の水準に達して、安心して仕事を任せられるようになるには、三年以上はかかりますね。

◇ポリテクセンターから採用した感想は？

当社では、経験者を採用をしていますが、経験者といってもいろいろあります。ポリテクの修了生は、センターに多くの設備があり、その環境で訓練された専門用語も理解しています。会社としては、そこが大きいです。一般求職者の方の採用を要請される時がありますが、一般の方は、訓練を受けることが前提であると考えています。現在、当社ではポリテクセンターからの訓練生が八名も働いています。さらに、ポリテクセンターの指導員は、情熱をもつ

修了生の声(溶接加工科)

溶接加工科 平成30年6月修了
梅原 直子 さん



前職は営業事務職に従事していましたが、鉄のフランジを製造している会社だったため、人のために役立つ「ものづくり」に興味を持ち、転職の時に訓練説明会に参加しました。訓練の見学では、溶接加工科の雰囲気がとても良く、「今は経験者が不足しており、これからは女性も求められる」との説明に魅力を感じ、溶接加工科に入所を決意しました。結果、私を含め

て三名の女性が入所しました。訓練では、ガス溶接・アーク溶接・TIG溶接を学びました。さらにフオートクリフトの資格も取得することができました。色々と楽しく学べましたし、先生やクラスメイトとのつながりもでき、今でも連絡を取り合い互いに励まし合っています。同じような仕事をしているから話をしているとモチベーションも上がります。現在は、パレット薄板加工の仕事をしています。ポリテクセンターで使っていた溶接機と基本的に同じですので、仕事もやりやすいです。さらに、昨年にアルミ溶接コンクリートの全国大会(尼崎市)を見学する機会を頂きました。出場者は会社の代表というだけあって感動するような技術力でした。私も近い将来、会社の代表として出場したいと決意し、日々精進しています。

◇この仕事を目標とする人へ伝えたいことは？

世の中の技術が進歩しています。日本もこれから変化していきます。働き方改革の一環として、既に作業現場にも一部空調が入っていますが、各セクションへの空調完備など環境設備にはかなり投資をしていく予定です。

◇ポリテクセンター和歌山に期待することは？

これから訓練生を積極的に採用していきたいと思っています。また多くの資格を取って入社していただきたいと考えます。さらに時間とコスト意識の重要性も併せて教育してください。(令和元年7月取材)